



京都市文化観光資源保護財団

会報

No. 33



もくじ

- 祇園祭お迎え提灯と花傘巡行 八坂神社宮司 鈴木日出年 P 3
目で見る京の文化財 No.3 「絵馬の楽しさ<1>」 P 4
わたしと京の文化財 (2) 大文字五山送り火とともに
大文字五山保存会連合会 会長 川内宗淳 P 7
六斎念佛と子どもたち P 8
京都市文化財保護条例 一登録制度について一 P 9
古い寺に住んで <10> 法然院住職 橋本峰雄 P 10
会員だより P 11
保護財団の活動 P 16

会報題字 理事長 佐伯 勇

会報	
No. 33	57. 7. 1
編集・発行	
財団	京都市文化観光資源保護財団
法人	京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
	〒606 電話 075-752-0235 (代)

**募金にご協力いただき
ありがとうございました**

寄付者芳名録(敬称略) 57.1.11~57.4.30

一法人及び団体の部

[特別会員]

*京都市地域婦人会連絡協議会 <101万7千2百8拾8円>
*次田株式会社 <51万5千円>

[普通会員]

*株式会社じゅらく本社 <20万円>
*株式会社西陣まいづる <13万円>

[賛助会員]

*旅館 松葉亭 <6万円>
*ヤマカワ株式会社 <4万1千円>
*株式会社 金沢土建 <4万円>
*株式会社京都相互銀行秘書課 <4万円>
*アオイ自動車従業員一同 <2万2千円>
京都市洛西竹林公園観賞者 <1万7千9百5拾4円>
*富の井 <1万5千円>

一社寺の部

[特別会員]
*松尾大社 <100万円>

[普通会員]
徳禅寺 <20万円>

一個人の部

[特別会員]
*西村平治 <60万円>
*高橋政幸 <25万円>
*竹村實 <15万円>
*梅岡大祐 <12万3千円>
*津村幸三郎 <12万6拾1円>
*田中正男 <11万1千5百円>
*佐藤諦学 <10万1千円>
*山崎章 <10万円>

[普通会員]

*丸山末棹 <9万6千2百円>
*山崎ぬ <9万円>
*水口英子 <8万円>
*石田豊之助 <7万円>
*高橋一男 <6万2千円>
*竹内キミ子 <6万円>
*岡本保止 <5万5千5円>
*原山喜代 <5万5千円>
*増田勇三 <5万3千円>
*奥崎一郎 <5万3千円>
*児玉誠 <5万1千円>
*土手修 <5万円>

*水野弘三 <5万円>
*加藤雅一 <4万円>
*神崎順一 <3万2千円>
*松島浩子 <3万1千円>
*吉田篤信 <3万1千円>
*柴田二郎 <3万円>
*元吉正文 <2万8千円>
*今井憲一 <2万8千円>
*小野初恵 <2万3百円>
*加来大忍 <2万円>

[賛助員]

*大野健三 <1万6千円>
*西原寿子 <1万6千円>
*伊藤重和 <1万4千円>
石川シズエ <1万円>
宮下満喜子 <1万円>
松木作治郎 <1万円>
*舟木八重子 <9千円>
*山田道雄 <7千6百8拾5円>
*遠藤伊之助 <7千円>
*西岡敏郎 <7千円>
*藤原本忠利 <6千円>
篠原政美 <5千円>
山本もと子 <5千円>
*大嶋真治 <4千円>
*澤村彰 <3千7百円>
*西村敏子 <2千4百5拾7円>

*西村浅田良子 <2千円>
*楠北村昭三 <2千円>
*桜井のぶ子 <2千円>
*斎藤クラ <2千円>
富家大器 <2千円>
戸木田タツ子 <2千円>
田井四郎 <2千円>

*徳留ユミ <2千円>
西川須美子 <2千円>
木本康俊 <2千円>
吉田陽子 <2千円>
新庄義雄 <1千円>
中田稔 <1千円>
森脇健二 <1千円>
西田実 <1千円>
西林京子 <1千円>
星野和恵子 <1千円>
中田満子 <5百円>
増田堅一 <5百円>

(※印は追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額)

祇園祭

お迎え提灯と花傘巡行

八坂神社宮司
鈴木 日出年

7月1日の吉符入に始まり、29日の神事済奉告祭、31日の疫神社夏越祓までの1ヵ月にわたりおこなわれる祇園祭。しかし、昭和41年には長い伝統の形態であった山鉾巡行の17日の先の祭と24日の後の祭が、先の祭に一本化されるという巡行形態の大変革があった。後の祭がなくなったことから、山鉾の原形ともいべき花傘巡行を24日の後の祭として執り行なうようになり、祇園祭本来の形態を失する事なく年々盛大に執行しております。

さて、10日に行なわれる神輿洗は、江戸初期に四条河原の芝居小屋の役者が、定紋入りの提灯を手に御神輿を迎え八坂神社までお供をしたといわれているもので、昭和27年、80数年ぶりに祇園万灯会の人達により復活された。お迎え提灯は、子供達による獅子や、拍手物、踊、馬長稚児、児武者などの行列と祇園囃子を加え、趣向をこらした数十棹の提灯の列がようやく迫る宵闇の中を円山公園を出発し、四条通を西へ、



7月10日におこなわれるお迎え提灯。それぞれに趣向をこらした提灯と子供たちの行列が神輿を迎える。



むかしの風流など山鉾の古い形を現在に再現した花傘巡行。およそ300人に及ぶはなやかな行列がくりひろげられる。

河原町通を北上し、市役所前にて踊りを披露したあと、寺町通を南下、四条御旅所をへて四条大橋上の神輿洗の終った神輿のお供をして八坂神社に到着する。そして、能舞台にて舞踊を奉納し終える頃になると舞殿におさまたった神輿の装いもすべて完了し、境内には献灯の提灯のあかりがあかあかと神域を照らし、日一日とお祭の気分を盛りあげていく。

そして、山鉾巡行も終わり24日になると花傘巡行が花傘連合会によりおこなわれる。巡行は、八坂神社の氏子組織である清々講社及び婦人会、清風会、青年会と京都織物卸商業組合、鶯舞保存会、田楽保存会、祇園甲部、祇園東新地、先斗町、宮川町の四花街また祇園太鼓、久世六斎、祇園万灯会にボイスカウト、ガールスカウトによる子供神輿など加わり、花車がそれぞれ花傘を中心に趣向がこらされ行列は、寺町御池から笛、太鼓などの鳴物も賑やかに寺町通を南下し、四条御旅所をへて八坂神社に到着する。そして、直ちに社前にて芸能を奉納披露するのである。

花傘巡行は、完成された山鉾巡行に比べ内容的にも未完成の向きも多く、今後の課題であろうと思う。

**京の文化財をまもる5億円募金を達成するために
あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい**

絵馬の楽しさ <1>

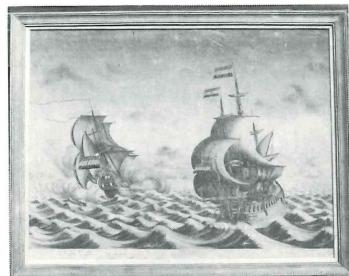


今宮神社 絵馬舎 (寛政3年・1791建立)

■絵馬

絵馬は、生馬による神馬の献上という古代以来の信仰からはじまつたといわれる。この信仰が時代とともに馬形の器物を献上するようになり、さらに変遷をかさねて画馬（絵馬）を奉納するにいたつものである。

そして、近世になると社会風潮や庶民信仰とあいまつて画題も多種多様になり、絵馬の奉納もふえやがて独立した絵馬堂が設けられるようになる。それとともに、一流の画家による工夫をこらしたすぐれた作品も生みだされ、今日、絵馬は近世絵画史上、貴重な資料となっている。



洋 船 (今宮神社)
筆者：若杉五十八 江戸後期



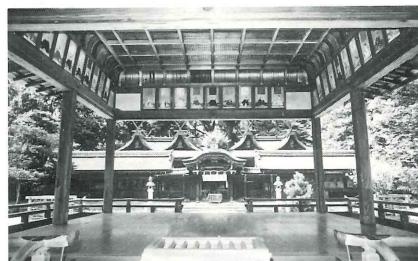
神功皇后 (今宮神社)
筆者：海北友徳 江戸後期



虎渓三笑 (今宮神社)
筆者：原在中 江戸後期



神馬浮彫 (貼付) (上賀茂神社)
筆者：不詳 安土桃山時代



平野神社 拝殿
(慶安年間
1648~1652建立)



三十六歌仙(6面)
(平野神社)
右 小野小町
左 源 宗干
筆者：海北友雪
江戸前期



足柄山 (真如堂吒枳尼天堂)
筆者：源高就 作成年代不詳



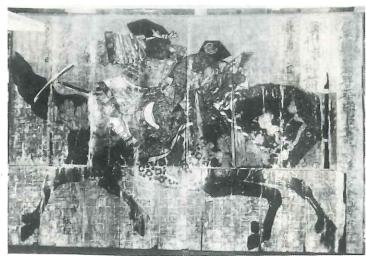
北野天満宮 絵馬舎 (慶長13年・1608建立)



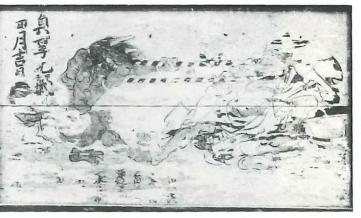
曳馬 2面 (北野天満宮) 筆者：曾我直庵 江戸前期



曳馬 2面 (北野天満宮) 筆者：曾我直庵 江戸前期



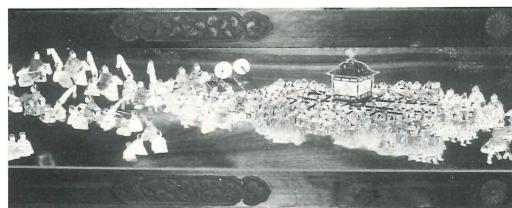
土佐坊弁慶相騎 (北野天満宮)
筆者：長谷川等伯 江戸前期



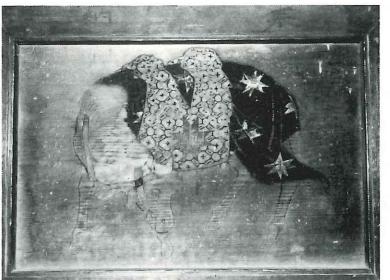
朝比奈首引 (北野天満宮)
筆者：不詳 江戸前期



平忠度討死 (北野天満宮)
筆者：西川祐信 江戸中期



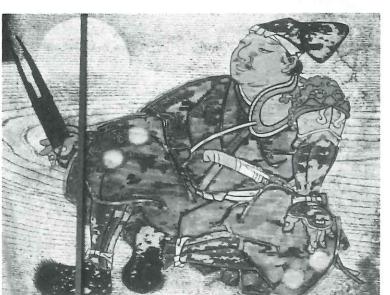
孝明天皇賀茂両社行幸 (下鴨神社)
筆者：不詳 江戸後期



繫馬 (真如堂吒枳尼天堂)
筆者：円山応挙 江戸後期



三十六歌仙 (6面) (禅林寺) 筆者：絵不詳 書 近衛信尹
作成年代不詳



足柄山 (真如堂吒枳尼天堂)
筆者：源高就 作成年代不詳



牛若と淨瑠璃姫(真如堂 吐枳尼天堂) 筆者:作成年代不詳



繫 馬(大雲寺) 筆者:不詳 江戸前期



曳 馬(大雲寺)
筆者:不詳 江戸前期



鷲(峰定寺)
筆者:渡辺始興 江戸中期



牛若と鞍馬僧正坊(峰定寺)
筆者:不詳 江戸前期



跋陀婆羅菩薩(南禪寺)
筆者:作成年代不詳



調 馬(峰定寺) 筆者:平安河北鼎 江戸中期



繫 馬(峰定寺) 筆者:不詳 江戸前期

京都には、それぞれの時代を代表するすぐれた文化財が数多く保存されています。これら文化財のうち、十分な保存管理がなされないまま放置されているものの一つに繪馬があげられます。繪馬の大半は、繪馬堂という開放的な建物におさめられているため、荒廃化が激しくいたみもひどいものが多い現況であります。このため、京都市では昭和48年度から繪馬の実態調査にとりくみ、54年に調査報告書を発行しております。

当財団では、会員の皆様にも繪馬についての理解と関心を深めていただくため、この調査報告書の一部を紹介することにいたしました。

今回は、まず京都市の北区、上京区、左京区の主な社寺の繪馬を紹介いたしました。今後も順次紹介していく予定です。ご期待下さい。



わたしと京の文化財(2) 大文字五山 送り火とともに

大文字五山保存会連合会会長
船形万燈籠保存会 会長

川内宗淳

盛夏の最後、京の夜空にくっきりうかぶ大文字五山の送り火は、御先祖始め、今は亡き父母兄妹、友人知人等の面影をしのびつつ、一切諸霊の追善、四海泰平、家内安全、五穀豊穣を祈願し、香を焼き、合掌読経し無事今年のお盆行事の終えた事を感謝するものです。

思いますに五山の送り火は、わずか30分程の火でありますですがその従事者全員は裏方としてより立派な送り火をともそと、厳寒1月末より休日を利用して下草刈、松割木、火付用松葉の準備と火床の補修、山道の整備等の作業に奉仕しております。

送り火は、約500年の昔から現在まで引き継がれています。これは、宗教行事だからです。自分達があるのは、御先祖様があるから自分がおり、自分が御先祖のお祭をするのは当然

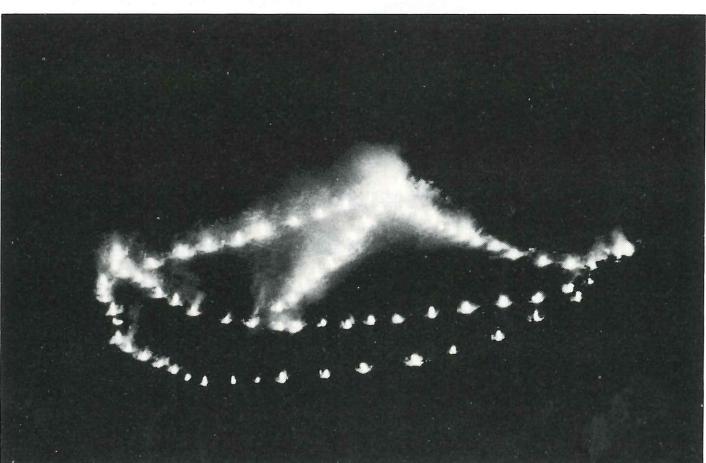


船形万燈籠の準備風景

であり、又先祖から引き継がれてきたこの伝統の火を次代に引き継いでもらわなければならぬという使命あふれた気持ちと伝統の火をともす誇りとで精一杯努力しているのです。しかし、現在どれぐらいの方が送り火に手をあわせておられるでしょうか。昔とちがって、御老人の方と一部のわざかな方とお聞きしています。お盆の16日、地獄の釜の蓋もあき皆様がゆっくりくつろいでおられる頃、私達五山保存会員は、早朝より準備し点火、消火、あとかたづけなど全作業を終える夜の11時近くまで汗水を流しているのです。京都の四大行事の一つとしての五山

送り火をホテルなどの高額の観賞券で、ただ美しく夏を送る風物詩として見るのでなく、送り火本来の姿を思いおこして手をあわせる気持ちをもっていただきたいものです。

送り火に合掌する心、それが送り火行事に従事する保存会員の大きなはげみとなり、来年へ又、次代へ引き継いでいく伝統の火を絶やさないエネルギーとなるものと考えます。



船形万燈籠

六斎念佛と 子どもたち

京の夏をいろいろな盆の行事の一つとして、六斎念佛が京都のあちこちの社寺で行なわれます。今年もこの六斎念佛の奉仕のためにおとなにまじって鉦、太鼓などを一生懸命演じる子どもたちの姿があります。

京都の代表的な民俗芸能である六斎念佛をうけつぐ子どもたちから、作文をいただきましたので紹介いたします。



壬生六斎保存会

林 直樹

朱雀第三小学校 6年

ぼくが、六斎をはじめたのは、四年生からです。最初は、歌ばかり練習をしていた。はやく太鼓をたたきたいなあと思った。やっと四ッ太鼓の練習をさせてもらった。初めは、むずかしくて思うようにたたけなかっただけれど、だんだんうまくたたけるようになって敬老会や色々な会に出られて、たいへんたのしいです。



中堂寺六斎会

伊 藤 歩

安寧小学校 4年

ぼくが、六斎にはいったわけは、お父さんがいっていたからです。初めぼくは、お父さんがやっているのを見たり、家でおしえてもらったりしていました。お父さんに「はいってみるか」と言わされたのは夏休みぐらいでした。ぼくは、すぐ六斎にはいりました。でも、本番は、きんちょうしてまちがえかけました。六斎にはいって、たいこをたたくのが、とてもたのしくな



りました。

これからも六斎をつづけたいと思います。



久世六斎保存会

石川 賢一

第三乙訓中学校 2年

僕が六斎を始めたのは、小学校3年生の夏からです。初めに習ったのは、四ッ太鼓です。歌とリズムが始まから終りまで良く似ているので覚えるのに苦労しました。今迄に習ったのは、四ッ太鼓、源平盛衰記など6曲です。今、習っているのは、獅子舞ですが、ご盤の上での練習が難しくて、失敗ばかりです。8月31日の八朔祭を目標に、がんばって練習に励みます。



嵯峨野六斎念佛保存会

大隅 浩明

嵯峨野小学校 4年

ぼくは、六斎を習っている。初めにぶたいに上がった時は、はずかしくて、あせをかきそうになった。だけど本番が終った時は、やってよかったです。六斎をやっていたら気持ちがうきうきしてくる。ぼくは大人になっても、続けたいと思う。みんなもがんばってやっていく。この六斎は昔から伝わっていたらしい。古くなっている着物、おれているふち、大太鼓などのどうぐは、嵯峨野六斎念佛だけのものなんだ。



西院六斎保存会

遠藤 彰一

西院小学校 4年



西院六斎保存会

近藤 史朗

西院小学校 3年

ぼくは、さいしょ六斎をならう時、どんなたいこをたたくのかたのしみでした。おじいさんに四つだいこを教えてもらう時「かんたんだよ。」と、おじいさんが言いました。はじめはむずかしかったけどあとになってみるとあんがいかんたんでした。そしてなれてくるといろんな所でやりました。いっしょにけんめい六斎をつづけていろいろな所で六斎をやりたいと思います。

京都市文化財保護条例

—登録制度について—

京都市文化観光局 文化財保護課

京都市文化財保護条例は、昭和57年4月1日から施行されたが、この条例には、他都市では見られない新しい試みとして「文化財登録制度」が盛り込まれている。

この登録制度であるが、貴重な文化財をできるだけ広範囲に選んで台帳に登録して保存状況や実態を把握し、修理等の際に専門的な指導、助言、助成を行なうほか、所有者がその文化財の価値を認識し、自らすすんで保存するよう誘導していくこともねらって設けた制度である。

したがって、現状変更の許可が必要な指定にくらべて、届出制であるなど規制はゆるやかで、住民の生活変化等をある程度認めるなど従来の規制中心の保護行政からの脱却をめざしている。

京都には、地域の人々が大切に守り伝えてきたすぐれた文化財が数多くある。これらは、たとえ芸術的、学術的価値は乏しくても、その地域の生活に根ざし、そこに住む人々の生活の支えになっているもので、たとえば野の石仏、鎮

守の森、古い民家と町並み、町角の地蔵尊、年中行事などいわゆる地域の文化財で指定よりも登録がふさわしいといわれている。今回の条例もこのような京都の地域文化財を重視して保存と活用を図っていくことが大きな特徴となっている。

ところで、このような文化財も、地域社会の変容、崩壊とともに忘れられ、こわされることが多くなっている。現在、これらの文化財を、地域の人々にいこいとうるおいを与え、地域の人々の連帯感をつちかうものとしてもう一度見直すことが求められている。

こうした状況のなかで今回この登録制度が発足をみたことはまことに意義深く、京都市では、調査体制を充実してできるだけ多くの文化財を登録していきたいと考えている。

そのためには、何よりも市民や所有者の理解と協力が必要であり、この登録制度の成否もこの点にかかっているのである。



古い寺に住んで <10>

法然院 住職
橋 本 峰 雄

法然院は、一昨年、中興満300年を記念したばかりであるから、はたして「古い寺」といえるかどうか。しかし300年、木造建築はやはり「古い」といわなければならぬだろう。7年前に晋山して私がまずしなければならなかつたことは、茅門及び伽藍の屋根の総葺きかえ、池泉の泥の大凌え、また浴堂の講堂への改造、全堂の自動火災報知設備の設置、300年記念に向けての御本尊及び莊嚴の解体修理、境内、庭園の整備さらに、所蔵する文化財の修復といったことであった。まさに、有田豪田、有宅豪宅である。

私は、これらの事業をたとえば火災報知設備のように万一火災をおこせば、公共に迷惑をかけるケースにおいてごく一部、公共の援助をえ



方丈には、桃山時代、狩野光信の作と伝わる襖絵「桐に竹図」「若松図」「楓に海棠図」がおさめられ、いずれも重要文化財に指定されている。

法然院
(京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町)
善氣山万無教寺と称する浄土宗の寺院である。当寺は、延宝8年(1680)知恩院第38世 万無心阿上人が祖師法然の旧跡をしのんでこの地に一宇を建立したのがおこりで、第2世 忍徹上人によって興隆されたといわれる。本堂には、惠心僧都作と伝える阿弥陀如来坐像が安置され、方丈には狩野光信筆の華麗な襖絵(重文)がある。



優雅な茅葺の門と盛砂

たが信条としてもっぱら檀信徒への淨財勸募によって行なった。私はそういう檀信徒に支えられた寺院の住職である有難さを思いしめている。

宗教は、国家や政治から独立のものでなければならず、寺院はあくまでも宗教寺院でなければならない。法然院をいわゆる觀光寺院にしてはならないという檀信徒の強い要望である。宗教寺院であるためには、逆説的ながら非公開の閉鎖性をもつた場所であらざるをえない。ところが、また逆説的ながら觀光寺院でないがゆえにかえって觀光の一名所となっている。國家の保護を受ければ、一般觀光客にも公開すべき義務をとうはずである。また、宗教が国家に依存するならば宗教の国家に対する超越性・自由性・批判原理は

喪失されざるをえない。法然院のような中級規模の宗教寺院は一般に対しても京都古文化保存協会によりおこなわれる「未公開寺院特別拝観」で勘弁ねがうほかはない。

こういった種々のジレンマのなかで、私は非凡力をもって伽藍の維持に汲々としている。そのとき、この保護財団のような助力は有難いかぎりであり、頼りにしております。

会員だより



京都に暮せて

佐野綾子(77)
京都市左京区下鴨

わたしは、主人の勤めの関係などもあって京都を離れて暮らすことがたびたびありました。それだけに、ずっと京都で暮らしておられる方よりわたしのようなものの方が、かえって京都のよさがよけいにわかるような気がします。地方それぞれ特色がありますが京都は、やはり古い都ですからこれほど落ちついたまちは他にはありません。こんな京都のまちをわたしは、主人と一緒によく歩きました。四季おりおりの自然、お寺や神社の文化財、葵祭や祇園祭などのお祭……。わたしの好きなこの京都のよさをいつまでも守ってほしいと願い、昭和45年銀行で何気なく保護財団のポスターを見かけたのをきっかけにそれ以来、ほんの気持だけですが、募金に協力をさせていただくようになり、主人が亡くなつてからは命日に忘れないようにさせていただいております。



方丈庭園

京都を離れて



親谷貞己(73)
神戸市北区鈴蘭台 会社員

40年近くも住み慣れた京都を離れて、はや10数年になります。時折、京都に出かけた時は静かな落ちついたまち並みを歩くように心掛けています。すると旧知のところにもかかわらず、又新たな京都のよさを見付ける事ができ、大変うれしく感じる時があります。

先日も広沢池から大覺寺、嵐山にまいりましたが北嵯峨の方面が全く昔のままの田園風景だった事には、一驚すると共に本当ににつかしく感じました。また、思い出の多い嵐山は、観光客が多くなりましたが嵐山から小倉山、愛宕山にかけての山の緑、大堰川の清流など全く昔と変わらない景観を渡月橋の欄干にもたれてながめていると、50余年の歳月の経過を忘れ若かつた昔にかえったような錯覚を覚えました。このような京都のよさをみんなの力でまもっていきたいと願ってやみません。

京の年中行事 (7月～9月)

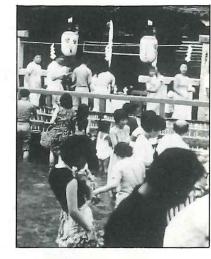
7月 (文月)

とき	行事
7日 (水)	貴船の水まつり 貴船神社 ○献茶 裏千家社中 (午前10時) 有料 ○生間流式庖丁 ○舞楽 (午後2時まで)
7日 (水)	七夕祭 北野天満宮 ○御手洗祭 (午前10時) ○氏子による七夕祭 (午後1時30分)
7日 (水)	精大明神例祭 白峰神宮 ○精大明神祭 (午後3時30分) ○七夕小町踊、織姫舞 (午後4時～7時)
9～12日 (金～月)	陶器供養法要と陶器市 千本釈迦堂 ○法要 (10日午後2時) ○陶器市 (9～12日午前9時～午後10時)
18日 (日)	松尾大社御田祭 松尾大社 ○祭典 (午前10時～正午)
22・23日 (木・金)	辨天祭 長建寺 ○宵祭 (22日) ○大祭 (23日) 柴灯大護摩供修行 (午後7時30分～9時)
22・23日 (木・金)	本宮祭 伏見稻荷大社 ○宵宮祭 (22日午後6時) ○本宮祭 (23日午前9時)
25日 (日)	鹿ヶ谷カボチャ供養と宝物虫干 安樂寺 ○カボチャ供養と寺宝一般展観 (午前9時～午後3時)
25日 (日)	真如堂寺宝虫払会 真如堂 ○寺宝虫払法要と宝物一般公開 有料
28・29日 (水・木)	きゅうり封じ 五智山蓮華寺 ○宵祭 (28日正午～午後9時) ○本祭 (29日午前6時～午後6時)

とき	行事
29日 (木)	御手洗祭 下鴨神社 ○足つけ神事 (午前5時～午後11時)
31日 (土)	千日詣り 愛宕神社 ○祭典 (午後9時～翌朝午前2時)
31日 (土)	茅の輪の神事 御香宮神社 ○神事 (午後11時・8月1日午前3時)



白峰神宮 精大明神例祭



下鴨神社 御手洗祭



伏見稻荷大社 本宮祭



愛宕神社 千日詣り

8月 (葉月)

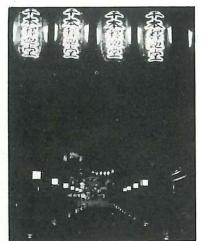
とき	行事
7日 (土)	下鴨神社夏越神事 下鴨神社 ○夏越の神事 (午後7時より)
7～10日 (土～火)	若宮陶器大祭 (陶器まつり) 若宮八幡宮 ○若宮陶器大祭 (8日午前10時) ○大陶器市 (7～10日) 五条坂一円
7～10日 (土～火)	六波羅蜜寺万灯会 六波羅蜜寺 ○開山法要 (7日早朝) ○大万灯点灯 (8～10日午後8時) ○送り火万灯点灯 (16日午後8時)
16日 (月)	六道まいり 六道珍皇寺
7～10日 (土～火)	六道まいり 千本釈迦堂 ○法要 (期間中、終日) ○本尊釈迦如来坐像展観 (午前9時～

とき	行事
16日 (月)	午後4時) 有料 ○精靈送り (16日午前8時～午後10時)
9～16日 (月～月)	壬生寺精靈迎え万灯供養会 壬生寺 ○精靈迎え (9～10日) ○本堂、文化財収蔵庫展観 (9, 10, 16日 午前9時～午後4時) 有料
14～16日 (土～月)	東大谷万灯会 東大谷 ○万灯会 (午後6時～9時)
14～16日 (土～月)	万灯祭 車折神社 ○万灯祭 (14～16日早朝～午後10時)
15日 (日)	花背松上げ 左京区花背八樹町 ○松明点火 (午後9時) ※バスでの日帰り は出来ません。宿泊施設有り 雨天順延

とき	行事
15・16日 (日・月)	松ヶ崎題目踊 涌泉寺 ○題目踊り (15日午後8時、16日午後9時)
16日 (月)	精靈送り万灯流し 嵐山 ○万灯流し (午後8時)
23・24日 (月・火)	化野念仏寺 千灯供養 化野念仏寺 ○千灯供養 (午後6時～午後8時) ※参拝は、本年より予約申込み (6月15日 ～7月31日) が必要。 お問い合わせ (075) 861-2221
24日 (火)	広河原松上げ 左京区広河原 ○松明点火 (午後9時頃) 雨天順延 ※バスでの日帰りはできません。
24日 (火)	雲ヶ畑松上げ 北区雲ヶ畑出谷町中畑町 ○松明点火 (午後8時頃) 雨天順延 ※バ スでの日帰りは出来ません。宿泊施設 有り
24日 (火)	久多花笠踊 左京区久多 思古淵神社 ○花笠踊り (午後9時頃) ※バスでの日 帰りは出来ません。宿泊施設 有り
25日 (水)	北野天満宮月次祭と奉納絵馬展 北野天満宮 ○宝物公開 有料 絵馬展



下鴨神社 夏越神事



千本釈迦堂 六道まいり



東大谷 万灯会



地藏盆

とき	行事
5日 (日)	松尾大社八朔祭 松尾大社 ○祭典 (午前10時) ○奉納大相撲 (午前9時～午後4時頃) ○万灯祭及び嵯峨野六斎念仏 (午後4時頃)
8日 (水)	上賀茂 紅葉音頭 (午後8時) 上賀茂神社
8・9日 (水・木)	鳥相撲と重陽神事 上賀茂神社 ○鳥相撲の内取式 (8日午後8時) ○重陽神事及び鳥相撲 (9日午前10時)
9日 (木)	重陽の節会 法輪寺 ○菊の節句 (菊花供養) (午後1時)
14～16日 (火～木)	三宅八幡宮 秋季大祭 三宅八幡宮 ○前田祭 (14日午前9時) ○放生会 (15日午前8時) ○後日祭 (16日午前9時)
15日 (水・祝)	金比羅櫻祭 安井金比羅宮 ○祭典 (午後1時)
15・19日 (水祝・日)	萩まつり 梨木神社 ○俳句祭 (15日午後12時30分～午後5時30分) ○祭典 (19日午前10時)
23日 (木・祝)	観月茶会 野点 (午前8時30分から) 有料 ○狂言、日本舞踊等奉納 (午後1時)
20～26日 (月～日)	秋の彼岸会 各寺院
21～25日 (火～土)	お砂踏法要 今熊野觀音寺 ○法要 (日出～日没)



上賀茂紅葉音頭



上賀茂神社鳥相撲と重陽神事



梨木神社 萩まつり

※都合により行事、日程が変更される場合がありますのでご了承下さい。

祇園祭

7月1日の吉符入から約1ヶ月にわたりくりひろげられる祇園祭は、約1100年の歴史と伝統を誇るまつりであります。

□祇園祭の主な行事

7月1日 吉符入（各山鉾町）

神事始めの意味で、各山鉾町で祇園祭に関する諸打合せをする。7月1日以外の日に行なう町内も多い。

2日 くじ取式（午前10時 京都会館会議場）

山鉾巡行の順番をくじによって決定する式。

10日 お迎え提灯（午後5時 八坂神社～河原町四条～市役所～寺町通～八坂神社）

神輿洗の神輿をむかえるため、趣向をこらした提灯をたてて行列する。

10日 神輿洗（午後8時 四条大橋 鴨川）

神幸祭に出る神輿3基のうち、中御座1基を鴨川の水で洗い清める。

10～13日 鉾建て・鉾曳初め

10日又は11日から各鉾町では鉾建てを行なう。鉾の組立ては、伝統の手法で行ない3日間を要する。

13日 長刀鉾稚児社参（午前11時 八坂神社）

長刀鉾稚児が八坂神社にていわゆる「お位」をもらう儀式。

13～14日 山建て

16日 宵山

16日 あばれ観音（午後11時 南觀音山）

祭神である観音像を台座に移し、町内をかつぎまわる珍らしい行事。

16日 日和神楽（午後11時 各鉾町～八坂神社）

鉾町のはやし方が、鉾からおり祇園囃子を奏しつつ八坂神社に参拝する。

大文字五山送り火

京都の夏をいろいろ大文字五山送り火は、ふたたび冥府にかかる精霊を送るという意味をもつ伝統行事であり、地元保存会の人達により今まで受け継がれています。

□大文字

午後8時点火（よく見える場所 賀茂川堤防（三条大橋～御薙橋））

15日夜から16日朝にかけ、護摩木（松割木）に先祖の靈や生存する人の無事息災が記され、この護摩木を点火資材として当日山上に運ばれる。16日夜7時山上の弘法大師堂でお灯明がともされ、般若心経があげられ送り火が点火される。

- 17日 山鉾巡行（午前9時 四条烏丸出発）
17日 神幸祭（午後4時 八坂神社～四条寺町御旅所）

八坂神社3基の神輿が氏子町内を巡行して、四条御旅所にとどまる。

- 24日 花傘巡行（午前10時30分 寺町御池出発～寺町四条～八坂神社）

山鉾の古い形態を再現するねらいではじめられた行事

- 24日 還幸祭（午後5時 八坂神社～四条寺町御旅所）

17日の神幸祭から御旅所鎮座を終えた神輿3基が氏子町内を巡行して八坂神社に還幸する。

- 28日 神輿洗（午後8時 四条大橋 鴨川）
10日に同じく神輿を洗い清め格納する。

- 29日 神事済奉告祭（午後3時 八坂神社）
祇園祭の終了を奉告し、神恩を感謝する。

※行事の日時については、その年により多少の変更があることをご了承下さい。



神輿洗



長刀鉾稚児社参



お迎え提灯 小町踊



屏風飾り

- ### □妙法
- 午後8時10分点火（よく見える場所妙法・北山通・高野川堤防）

16日朝早くから点火準備にかかり、点火の際には「妙」の山で読経がおこなわれる。送り火終了後（午後9時）涌泉寺において題目踊が行なわれる。

- ### □船形
- 午後8時15分点火（よく見える場所 北山通（北山橋から北西））

16日午後1時頃から火床の松割木の組み立て作業がはじめられる。午後8時西方寺において読経がおこなわれ、同時に送り火が点火される。送り火終了後、西方寺において六斎念仏がおこなわれる。

- ### □左大文字
- 午後8時15分点火（よく見える場所 西大路通（西院～北大路通））

16日午後7時頃、法音寺（衣笠街道町）にて護摩木を焚き、先祖の靈をなぐさめる法要が行なわれる。その後、

親火松明と手松明がともされ、山上へ運ばれ送り火が点火される。

- ### □鳥居形
- 午後8時20分点火（よく見える場所 松尾橋、広沢池など）

16日午前8時頃山麓の会議所から山上へ松割木が運ばれる。午後4時頃から再び山へ上り送り火の点火の準備が行なわれる。



松ヶ崎妙法の点火中



大文字五山
の各火床



大文字
妙法



船形



左大文字



鳥居形

六斎念仏

□主な六斎念仏の公開日と場所

8月7日（午後8時）円覚寺六斎念仏（右京区水尾円覚寺）

10日（午後8時30分）壬生六斎念仏（中京区壬生寺）

16日（〃）中堂寺六斎念仏（〃壬生寺）

〃（午後9時）西方寺六斎念仏（北区西賀茂西方寺）

22日 上鳥羽六斎念仏（市内六地蔵めぐり）

〃（午後8時）小山郷六斎念仏（北区烏丸鞍馬口 上善寺）

23日（午後8時）嵯峨野六斎念仏（右京区嵯峨野 阿弥陀寺）

〃（午後7時30分）西院六斎念仏（右京区西院高山寺）

25日（午後8時）吉祥院六斎念仏（南区吉祥院 吉祥院天満宮）

29日（午後7時30分）梅津六斎念仏（右京区梅津梅宮大社）

31日（午後8時）久世六斎念仏（南区久世蔵王堂 光福寺）



○祇園祭「宵山飾り」

日時 7月15日(木)・16日(金)

午後5時～10時

場所 京都市中京区室町通蛸薬師角
丸池藤井(株)南側

内容 屏風飾り

一無料一

○賀茂県主系図の展観

上賀茂神社の神職として奉仕してきた賀茂氏（社家）の平安時代より江戸時代まで約1,000年にさかのぼる系図（重要文化財）を公開。

日時 7月25日(日) 午前10時～午後3時

場所 上賀茂神社勅使殿（雨天中止）一無料一

○金閣寺庭園無料公開

日時 8月16日(月)午前9時～午後4時30分

○銀閣寺庭園無料公開

日時 8月16日(月) 午前8時30分～午後5時

○第9回 雅楽・舞楽公開演奏会

日時 昭和57年9月14日(火)午後7時～

場所 京都会館第2ホール 一入場無料一

○高樹院萩庭園無料公開

期間 9月9日～15日頃

午前10時～午後4時

場所 高樹院（京都市左京区上高野三宅八幡）

第33回 文化財特別参観のご案内

『清涼寺』と『厭離庵』

今回は、嵯峨の釈迦堂の名で親しまれている清涼寺と藤原定家ゆかりの静かなたたずまいの厭離庵をたずねます。

□参観日時 昭和57年10月2日（土）

午後2時（参観時間約2時間）

□対象者 財団募金協力者（会員）とその家族

□申込方法 住所・氏名・年令を記入し返信用
切手60円分を同封の上、封書に
よりお申込下さい。

□申込先 京都市左京区岡崎最勝寺町

京都会館内 〒606

京都市文化観光資源保護財団宛

□参加費不用

※お問い合わせは財団事務局まで。なお、参加
ご希望が多い場合、制限することがあります。



清涼寺



厭離庵

編 集 後 記



■暑中お見舞申し上げます。

都大路に祇園祭の雑音が聞こえると京都も
夏本番となり、暑い毎日が続きます。会員の
皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

■今回、郷土の伝統芸能「六斎念仏」を受け
継ぐために先輩たちの指導を受け、一生懸命
練習に取りくんでいる小、中学生諸君から作
文をいただき本紙に紹介いたしました。昔と
は著しく生活環境がかわり、遊びや学校の勉
強に忙しい毎日をおくっている子どもたちが
伝統をまもろうと練習にはげんでいる姿をみ

て感動いたしました。この子どもたちに皆様
のあたたかいご声援をお願いします。

■会員の方の代表者、住所などの変更があり
ましたら事務局までご一報下さい。

—表紙写真解説—

■絹本着名 三折全友夫人像 長慶院蔵

本紙 縦 85.8cm 横 39.5cm

妙心寺塔頭の長慶院は、北政所の姉
三折全友夫人の菩提寺である。

当肖像画は、晩年の夫人の姿を描い
たと伝えられ、江戸初期の女性像とし
て優れた作品といわれている。

昭和56年度、破損著しいため修理が
おこなわれ、当財団の補助対象になっ
たものである。



— 差別をなくして明るい社会をつくろう —